

三心を磨く

学校だより NO. 16
平成30年 6月18日(月)発行
須坂市立東中学校
文責：金井勝久(教頭)
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

◇◇「頑張れ！東中」の思いを託して～美術部制作の応援旗～◇◇

東中美術部にはこの時期、「各部活動の応援旗を制作する！」という伝統があります。

運動部は中体連に向けて、吹奏楽部はコンクールに向けて練習を重ねている中で、美術部は各部活動の「旗」を制作し、その活動を応援してくれているのです。そしてその旗が完成し、今、体育館ステージに飾られています。



応援旗は全部で6枚。左から「バレー部」「陸上部」「吹奏楽部」「バスケットボール部」「卓球部」そして「美術部」となっており、それぞれの部の特徴を1枚の旗の中に、見事に現しています。

そして先日、この応援旗が完成し、ステージに掲示され、北信陸上壮行会・中体連上高井地区大会が行われました。選手がステージに乗り、フロアで応援団と全校生徒の応援する、その様子を見守るかのように「応援旗」が背後に鎮座する、全校の一体感を感じました。

「すごいな」「かっこいいな」「うまいな、さすが美術部だな」とは生徒たちの声。よいものを「よい」と言える生徒も、また「いいな」と思いました。今、1つの行事に向かって全校が1つになっています。美術部の皆さんありがとうございました。

◇頑張る生徒会！◇～縦割り清掃～

今年度の生徒会は、「三心清掃」を活動の柱の1つとして取り組んでいます。「三心清掃」とは、学校目標である「三心自立」を、清掃活動においても具現していこうという取組です。

具体的には「無言で」「隅まで」「最後まで」という姿で、清掃に取り組む意識を高めようとしています。

写真は、先日行われた「清掃集会」の様子からです。

清掃前、全校生徒が体育館に集まり、清掃の意義や方法などを確認します。今回は身支度として「前髪を入れる」を全校で確認しました。そして黙想が行われ、「縦割り清掃」がスタートしました。「縦割り清掃」では、1つの清掃場所に1年生から3年生までが入り交じって配属され、清掃が行われます。清掃場所に無駄な話し声はありません。ただひたすらに床を磨き、隅から隅までほうきや雑巾がけをする姿が展開されます。先輩の姿をちらちら見る様子、「ここもやって」と的確に指示する姿、互いの姿に学んでいる生徒たちです。



◇◇ 壮行会を終えた体育館では… ～「美しい学校に」⑦～ ◇◇

「僕たちのために、演奏をありがとうございました」
写真は、壮行会を終えた陸上部の生徒たちが、吹奏楽部にあいさつをしている場面です。これは陸上部だけでなく、他の部の生徒たちも必ず行っていることであり、東中部活動の伝統の姿です。

この姿は、応援団に対しても行われ、互いが向かい合い、言葉を交わします。1つの「儀式」です。

壮行会で吹奏楽部が入退場の演奏を行い、選手たちの心を鼓舞すること、応援団が声をふりしぼり全力で応援することは多くの学校で行われています。

しかし、壮行会終了後に体育館へ戻り、自分たちの壮行会を作ってくれた仲間たちに対して、お礼の挨拶をする姿はそれほど多くはないと思います。ですが東中学校の生徒たちは、ここの場面を大切に考え、脈々とつないでいるのです。この姿に、私たちは誇りを感じています。「感謝しています」という言葉だけでなく、自分たちの気持ちを行動で示す姿、これからも大切にします。



◇鑑賞音楽教室行われる！～メセナホールでプロの生演奏を聴きました～ ◇

6月6日(水)、2年に1度行われる「鑑賞音楽教室」がメセナホールにて行われました。今回は、「東京吹奏楽団」をお迎えし、プロの吹奏楽団の生演奏を聴くことができました。

当日は、墨坂中と本校と一緒に鑑賞を行いました。先生方によると「本校の生徒たちは反応がよかった」「メリハリをもって鑑賞できていた」

「鑑賞の態度が育っていた」「とにかくよく聴いていた」「一緒に歌うときの声は、東中の生徒の声がとでも出ていた」などの声が多く聞かれました。

こうした行事の中でも、場に合った対応が自然



にできるようになってる生徒たち、この姿はとでも素晴らしいことです。

プログラムとしては、セッションごとによる楽器の紹介や木管・金管・打楽器のアンサンブルがあり、フルメンバーでのジブリ作品演奏や聖者の行進・八木節・宝島などが演奏されました。また、吹奏楽部のコンクール課題曲である「マーチ・ワンダフル・ヴォヤージュ」の演奏も行われ、楽譜にメモを書き入れる生徒の姿もみられました。意識の高さを感じました。今を生きる果敢な生徒たちにとって、その道のプロの話をお聞きしたり、本



物に出会ったりすることはとてもよい経験です。自分の興味や関心があることやものはもちろんですが、そうでないことやものであっても、その経験がこれからの人生に生かされることや刺激を与えることがたくさんあります。今後もこういった機会を大切にいたします。